

こころの健康

第 42 号

平成 21 年 11 月

愛知県精神保健福祉協会
(愛知県東大手庁舎)

名古屋市中区三の丸三丁目 2 番 1 号
電話 (052) 962-5377 内線 550

情報を実感する

愛知県精神保健福祉協会常務理事

新 畑 敬 子

劇的な変化を目の当たりにすることは、そう頻繁に経験できるものではありませんが、平成 21 年には国民揃って体験することとなりました。8 月に実施された衆議院選挙です。投票日を境に報道の多くの部分が急激に変化しました。政権政党は政府であるから、野党とは異なり逐一報道されて当然と言えばそれまでですが、同時に今まで知らされていなかったことが実に多いと改めて感じた次第。また、日常我々に与えられる情報には情報を提供する側の思惑が反映されるという、ある意味で当たり前のことも実感しました。

近年、情報というツールが急速に発達してきたことは周知の事実です。第三次産業が大きな割合を占める現代社会は、情報抜きでは立ち行きません。明治以前、例えば江戸時代を振り返ってみれば、庶民が得られる情報はそう多くはありませんでした。幕府からはお触書や町役人からの伝達、事件やゴシップは瓦版、流行ものは浮世絵、他は人伝て。何れも時間や手間が掛かる手段であり、それ以外は、自らが見聞したものが情報でした。当時隣の藩は他国であり、人間の行き来も限られていたため、情報はごく限られた範囲内のものでしたが、それで事足りる時代でもあったといえるでしょう。『越後の縮

緬問屋のご隠居が先の副将軍である』ことが広まらない、という設定もこれなら納得できます。

現代では、自分が体験した情報よりも体験していない情報が圧倒的に多くなっています。殆どと言ってもいいかもしれません。しかも普通のことや当たり前のことは情報として流布されません。「今日も一日、変わりありませんでした」というニュースはありませんし、たぶん関心を持つ人も少ないでしょう。かつて『少年犯罪が増えている』『物騒な世の中になった』と盛んに言われましたが、実際には報道される機会(記事やニュース)が増えたことが影響していたという結果もあります。

情報が発信される時点で、取捨選択が行われるのは当然のことでしょう。情報全てを与えられてもその扱いに困ってしまいます。事実の一つですが、立場が変われば解釈も変わる、これも当然でしょう。しかし、数ヶ月前までは是であったことが非となり、非であったことが是となり、知らなかったことが次々と出てくると、いったい何が事実なのか混乱してしまいます。『当然』と片付けてしまって本当によいのでしょうか。今日も情報を入手しながら、また一方で情報を提供する立場としても、あれこれ考えています。

■平成 21 年度総会記念講演■

「生きる、いのちの活動

～家族、仲間とともに暮らすチンパンジーたち」

講師：日本モンキーセンター所長 西田利貞氏

ただいまご紹介いただきました、西田です。

さて今日は「生きる、いのちの活動」ということで、チンパンジーのお話をします。皆さんは「精神障害」を減らそうという活動をなさっていると伺っておりますが、チンパンジーに精神障害があるかという点を、まずおたずねになりたいのではないかと思いますので、最初に少しお話ししておきます。

野生のチンパンジーに精神障害と思われるものはいません。精神障害者をどう定義するのか、私もよく分かっていないのですけれども、要するに社会生活をうまくやっていけないということを精神障害と定義するならば、そういったチンパンジーはおりませんが、それぞれのチンパンジーは非常に違います。

例えば、チンパンジーのお母さんがいて、子どもが生まれたとします。当然育てますけれども、もちろん非常に小さい場合は手から離しません。3～4か月経ちますとお母さんによって大きな差が現れてきます。子どもが少々離れていても平気で食事に専念していたりするもの、レッセフェール (laissez-faire：自由放任主義) ですね。逆に子どもがちょっと自分から離れると、すぐに抱き寄せて子どもの動きを非常に制限するものもあります。こういった違いは子どもが1歳～2歳になるとどんどんはっきりしてきます。

このように個性はありますけれども、付き合い方があまりにも違うので、社会生活をやって

いけないという者は見当たりません。許容性とか愛想の良さ、寛容、利他的というような面は個体によって甚だしく違います。

例えば、毛づくろいは、シラミ (虱) を取るのですが、シラミを取るサービスを非常に熱心にやるチンパンジーと、自分を取ってもらっても自分からはやらないチンパンジーがいます。頭の上は手が届きますけれども、背中の中のシラミを取るのには難しいですから、背中を向けて取ってもらうしかないので。手は届きますがどこにいるのかよく分からないので、他の者に頭を下げてお願いするしかないわけです。

自分はシラミ取りを要求するだけで、自分からはほとんどやらない、全くやらないというわけにはいきません。全くやらないとやっていきませんので、少しはやりますけれども、その微妙なところで、非常に寛容な者とそうではない者、ほかの個体に対して与えるほうが多く、もらうほうが少ないという違いはあります。そういう意味では、ある程度のところの差はありますが、精神障害と呼べるものはいないと思います。

ただ私が見ているのは、一つが80頭ぐらいの集団です。現在はそんなにたくさんいなくて60頭ぐらいです。そういう小さな集団ですけれども、これから何年も何年も私の後輩たちがずっと見続けていくとそういう者に出会えるかもしれませんが、私が顔を覚えているのは250頭です。もう亡くなったチンパンジーが多いのですが、

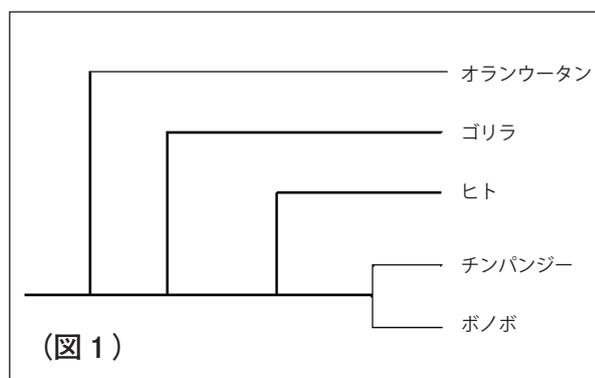
その250頭の中には1頭もいませんでした。

それでは、まずなぜ類人猿を研究しているのか、チンパンジーを研究しているのかということをお簡単に話します。

チンパンジーが何千年か何万年か経つと、人間になるということはありません。逆に、かつては人間とチンパンジーは同じ動物だったのです。大型類人猿全体の共通祖先は1200万年以上昔にアフリカに住んでいました。そこから、まずオランウータンが分岐しました。それからゴリラが分岐しました。ヒトとチンパンジー、ボノボの共通祖先は、900万年前頃から600万年前頃まで生きていました。600万年前に、ヒトの祖先はチンパンジー・ボノボの共通祖先から分かれ、直立二足歩行を始めたと考えられます(図1)。

現在のチンパンジーとヒトが共通に持っている行動は、双方の共通祖先も持っていた可能性が高いのです。そういった比較から、共通の祖先は、どんな行動をとっていたかということをお現存する動物から知ることができます。

私が注目するのはヒトとチンパンジーとボノボの共通祖先の行動とは何かということ。これは昔から共通に今も持ち続けているということと、生物学的な遺伝的な性質として関心を持っているということになります。



チンパンジーとヒトは、あおむけになり赤ん坊を両足にのせて、「ヒコーキ」あるいは、「高い高い」をやります。ゴリラも同じことをやる

そうです。ということは、ヒコーキを我々の祖先がゴリラの祖先と別れる前からやっていた、つまり900万年前からやっていたことを示しています。つまり、チンパンジーの野外研究によって、ヒトの行動の生物学的な背景、人間の生物学的背景を調べているわけです。ヒトというのは教育しだいでどうにでも変わる、という考え方が今も、特に教育学や社会科学の方面では盛んです。しかし、この考え方は誤りです。

教育によって変わってしまう。3歳から始めないないとだめだとか、そういうことを言っていますが、私は信じていません。要するに教育が全然役に立たないと言いませんが、イチロー選手の場合でも、お父さんが指導してきたことは影響したでしょうけれども、やはり遺伝的なものがあって、素質があって教育があってあのようになった。そういう素質も無視して、教育によってどうにでもなるのだったら、人間はもっともっと賢いし、いろいろな問題は起きていないと思います。チンパンジーの研究というのは野外で何の手も加えず、ありのままの姿をさせてヒトとの共通点、あるいは相違点を調べています。

例えば、リーダーや、攻撃的な者というのは、たくさん子どもを残すはずですが、そうでなければ、攻撃性という性質は残っているわけではありません。第1位のオスは、他のより順位の高いオスより多くの子どもを残していることが多いですが、弱いオスでも子どもを残しているのがいます。オスの間の順位だけでなく、メスの好みも影響しているのでしょう。

「集団同士は仲が悪い」ことも明らかになりました。この30年間ではっきりしましたが、集団と集団は非常に仲が悪い。境界線があって片方の数が多いと攻めて殺したりする。こういうことが分かっています。戦争の起源というのは農耕が始まって以降であるとよく言われている

ますが、実際はもっと古いのではないかと思います。

親が子どもに、血のつながっている者を助けるのは動物もおなじです。しかし、利益を与えられたことに対してのお返しは、動物にはほとんどありません。

お返しがあるから、お返しを期待して何かをする。一方、何かをもらうと、その行為を受け取ったという者は非常に強く印象に残って、何かお返しをしたいという気持ちになる。いくらもらっても平気な人というのは、あまりいないと思いますので、もらった何か厚意に対して厚意のお返ししなくてはいけないということが汚職の源泉です。この「恩義を感じる」というのは、ヒトの非常に古い感情ですので、ここに原泉のある汚職は簡単になくすことは難しいのです。

互酬性は人間に特によく発達したことで、私はこれがヒトの一番大きな特徴だと思います。そこから経済、政治活動が生まれる。税金を払うことで代わりに道路ができたり、幼稚園がつくられたりということで返ってくる。これは人類の最も他の動物との違いではないかと思います。但し、チンパンジーが肉を分配していることに対して、これは何かのお返しを期待しているのではないかと私は考えているのですが、証明するところまではいっていません。

教育がある。仲間を教える。これは非常に大きなヒトの特徴です。人間が教えるということは、教育するということです。チンパンジーは教えないのです。チンパンジーはすべて観察学習です。人間でも子どもは他人のやるのを見習って覚えることはたくさんあります。これを観察学習と言います。今でも日本人は寿司屋なんか丁稚奉公したら先輩は何も教えないから、調理や料理のコツを「盗む」のだという話を聞きます。おもしろいことに、模倣は「猿真似」

とも言いますが、実は猿はあまり真似できません。チンパンジーは少し真似をしますが、人間ほど真似をすることはありません。



では具体的な話をもう少ししていきましょう。アフリカ大陸でサハラ砂漠の北の方はもうヨーロッパです。サハラ砂漠の南はアフリカ人が住んでいるところ。チンパンジーは、だいたい赤道に沿って棲んでいます。但し、東の方は乾燥しています。現在は非常にチンパンジーの研究が盛んになりました。あちこちの生息地で、新しいチンパンジーの研究が始まっています。最近ではナイジェリアの東の方で研究が始まり、新発見が続々出ています。

タンザニアから西へ1600キロぐらい行くと、タンガニイカ湖になり、ここから船です。調子よく行けば12時間ぐらいで行けますけれども、小さなボートのため、風が出て波が荒くなってシケになると、3日もかかることがあります。

私が調査を始めた1965年は40年以上前になりますが、村があるだけで、国立公園でもなんでもないところでした。

チンパンジーだけではなくて、西アフリカ性の、森林性の動物がたくさん棲んでいるという珍しいところです。私たちの運動により、1985年にタンザニア政府が国立公園に指定しました。

マハレ公園の中心であるマハレ山塊のピークは標高2600メートル。但し湖が標高780メー

トルぐらいあります。

東アフリカの大部分はサバンナ樹木林におおわれていますが、マハレ周辺は森林が発達しています。湖があって高山があり、ここに湿気が保たれて森林が発達します。雨量も結構あり、1年間に1,800ミリから2,000ミリが降ります。

この地域にはトングエ族という部族が住んでいます。トングエというのは全部で2万人ぐらいですが、トングエ語という言葉があり、トングエの文化があります。

近隣の人たちと比べて文化的に全く違うわけではありませんしトングエ語という言葉も、例えばすぐ隣にいる、ニャムエジ族の言葉とそっくりなのです。よく調べて見ますと、例えば水や人などという基本的な単語はかなりよく似ていて共通しています。ただし耳で聞いたところでは、トングエ語は少し分かりますけれどもニャウエジ語というのは分からない。違いはその程度ですが、独自の言葉と文化を、2万人で持っているわけです。ただしこの文化ももうすぐ消えてしまうと思います。ここで興味深いのは祖先との関係です。彼らにはお墓というものはありません。

お墓と言うと、少し語弊があるのですが、もちろん死んだ人は今は埋めますけれども、埋めても村の近くの畑になっているようなところへ埋めるわけです。今は使っていないけれどもちょっと前は畑だったりするところに埋めます。

そこは、そのままにしておくと野生動物が来て掘って死体を食べたりしますので、イバラのようなものや石などをいっぱい置いて、そういう動物に食べられないようにします。

しかし、例えば特に墓石を置いたりなどはしませんので、しばらくすると忘れられてしまい放置されます。代わりに村の中に、イネ科のわらで作ったものを立てて、ここにキャッサバという小さい芋を植え、茎に白い布をちょっと巻

きます。

家があってキャッサバ芋と白布きれがあって、衣食住がそろっています。それぞれのシンボルに全部名前がついています。7代前の祖先、6代前、5代前というふうに、区別されています。

村ではだいたいおじいさんがいて、息子たちがそこに残っています。息子の奥さんは、よそからもらい、孫の世代とも一緒に住んでいます。

祖先のシンボルはシロアリにやられたりして、簡単なものですからすぐになくなってしまいますけれども、それをまたすぐに作り直すわけです。記憶の中に残っていればいくらかでも作れます。こうやって死者と現在生きている者が一緒になって住んでいるというかたちです。

焼き畑農業は家族の作業です。奥さんたちは、ほかの地から来ます。そして、一夫多妻の社会ですから兄が奥さんをもろう、それから兄が二人目の奥さんをもろう時にその奥さんの妹をもったり、従兄弟をもったりする、そういう親類の者はあまり喧嘩しないわけです。

このように、よく知っている仲で小さな人口でやっていくということですから、実際はほとんどの村は30人ぐらい、大きくても50人ぐらいしかいません。小さい村でおじいさんが亡くなって夫婦と子どもだけという家族もあります。奥さんがだいたい2人ぐらい。20人とか10人という非常に小さなコミュニティで繋がっていく。

大きな都市に住んでいるということは、毎日見知らぬ人と出会うわけですから、精神障害というような問題がなぜ起こるのかという、理由でもあると思います。

それからもう一つ、非常に重要視したいと思うのは異年齢の集まりです。現代日本のように子どもが学校へ行くと同年齢の子どもたちだけで遊んで帰って来ても、マンションに住んでいると近くの者と遊ばない。

私が子どもの時は、学校から家に帰ると6年生・5年生・4年生・3年生、それから幼稚園に行っている子どもみんな集まって町内で遊んでいました。私は京都の御所の近くに住んでいたため、学校から帰ると御所で近所の子どもたちと遊びました。すると6年生は下級生にいろいろなことを教えるので下級生は学ぶ事ができる。そこの中で喧嘩もするけれども仲裁も覚えるということです。

異年齢集団、異年齢の遊び集団というのは今もアフリカや東南アジアにはあります。だいたい小さな村ですから、遊ぶのは兄弟や姉妹や従兄弟など、そういった者しかいないわけで、同年齢の者を探そうとしてもそんなにいません。いても2人あるいは3人ぐらいです。異年齢だったらいます。そういうものは、日本だけではなくていろいろな文明社会にもかつてはありました。つい最近まで日本も私が子どもの頃ぐらいは残っていましたが、今ではそれがなくなってしまいました。

まだそこまで調べる余裕もありませんが、精神障害の数というのは人口の割合としていつごろ急にふえたのかというのを調べれば、分かると思います。

チンパンジーの集団について簡単にお話ししますと、大きな集団で60頭から80頭ぐらいで一つの集団を持っていて、複数のオス、だいたい10頭ぐらいのオスと、それから大人のメスは30頭ぐらいで3倍ぐらいいました。人間と非常にもっとも近い生き物と言いましたが、実は社会生活がかなり違います。

こういう集団生活というのは正しいのですけれども、特に性生活（セックス）が全然違います。家族というのがない。

人間の場合は一夫多妻とかありますけれども、一応配偶者がいます。人間も配偶者を無視して問題になることはしょっちゅうありますけれど

も配偶者はいます。チンパンジーは配偶関係は全くありません。

それからセックスに関して、オスは複数のメスと交尾しますしメスは複数のオスと交尾するというものですから乱交です。

チンパンジーの集団はメスを放出する。11歳になりますと、だいたい外へ出て行ってこの群の中から離れてしまう。オスはそのまま残り、死ぬまで同じ集団に残っています。だから父親と娘では交尾をするチャンスはほとんどないわけです。たまに婚出しないメスがいますけれども、そういう場合でも交尾はありません。

私も兄弟や姉妹の間の交尾というのを一度も見せていません。ゴンベ公園では観察はあるらしいので、絶対にないとは言えませんが、近親者の中でのセックスは彼らはいきません。

しかし配偶者というのが決まっていなくて、非常にこれは違うわけです。

子どもを育てることについては、人間の場合は父親も参加します。実際には放ったらかしでお母さんに任せきりでも月給は家に持ってくるということで一応父親の役目を果たしているということですが、チンパンジーのオスは月給も食べ物も何も持ってこないのです。

それから、父親はいないということを申しましたが、母親からはもちろん影響を受けます。母親の役割りというのは授乳とそれから運搬です。それから毛づくろいといっているシラミ取り。

このシラミ取りについては、日本人はとっくに忘れていました。私が子どものときはシラミ取りはやっていました。男の子はみんな丸刈りにしていますからシラミはつかなかったが、女の子は髪の毛を伸ばしていましたからシラミがいて、お母さんが取ってやったりしていました。もう50年以上前のことです。

アフリカは今でもお母さんが子どものシラミ

を取るのことは大事なことです。ノミも私が子どものときは畳をひっくり返して1年に1回大掃除をしましたが、この大掃除も今はなくなりました。大掃除、これもお母さんの役割でした。

毛づくろいというのはシラミを取るということですが、シラミを取ってあげるというのは一つの利他行動です。相手に対して利益を与えるということですが、こうして毛をまさぐって、そのときにシラミが取れなくても、そこを起源として、この毛づくろい自体が友好を表すというジェスチャーになっています。親しい者になる。親しい者に対してはよくやり、それから喧嘩の仲直りするということにも毛づくろいは使われます。毛づくろいという行動は、チンパンジーでは非常に重要な行動になっています。

父親がいないので、母子家族ということ。最大母親とそれから子どもの3人です。一番上がメスの場合、ある時期になると外へ出て行ってしまうと、子どもも5年か6年に1人しか生まれませんので3人そろふことは珍しいことです。

一番上の子どもが男の子の場合は集団に残りますので、その場合には母親と子どもの大きな母子家族ができます。



チンパンジーは離乳がすごく遅く、まだ3歳でも離乳はしないのです。遅いといいますが人間も、私の従兄弟は3歳半でまだお母さんのおっぱいを飲んでいましたから、人間とチンパ

ンジーの離乳の時期というのはそれほど変わらないと思いますが、人間のほうが早いことは確かです。

3歳になると非常に元気になりまして、例えば、お母さんの肩から前に飛び降りてすっと走っていく。それで前で待っていてお母さんが来たらまた背に乗り移ったりして、移動するときでも単に運搬されるだけではなくて自分で動いたりします。

それから母親と子どもは非常に切っても切れない関係というか、愛情深いものがあると思われていますが、実際には母親と子どもの間には葛藤あるいは喧嘩という利益の一致しない場合もあり、母親が子どもを殺すこともあります。

特に離乳期の葛藤というのは離乳させる、母親は子どもに離乳させないと次の子どもを産むことができないわけです。もし赤ん坊が健康であれば早く離乳したほうが次の子どもが生まれますから、母親としては子どもが健康であれば早く発情を取り戻します。

赤ん坊に授乳している間、母親は全然排卵がなくて交尾もしません。赤ん坊が4歳になると、チンパンジーは発情を取り戻し、排卵するようになります。そういう状況になるとお母さんは子どものことは忘れてしまい、次の子どもを作ることに没頭してしまうことになります。

母親と子どもというのは全く同じ(クローン)ではなく、子どもはお母さんとお父さんから半ずつ遺伝子をもらうのですから、半分は違うわけ。母親の遺伝的な利益と子どもの遺伝的な利益は、半分は一緒だけれども半分は違うということです。

ところが、子どもとしては、自分が自分に対する遺伝的と言ったらおかしいですけども、自分が自分に対しての1の遺伝子、そして、弟や妹は自分とは2分の1の遺伝子の違いですから、もちろん自分のほうが弟や妹よりも重要な

わけです。ですからちょうど離乳をするような期間の場合は、お母さんは離乳したいが、子どもはもう少し自分が妹や弟が生まれるよりも自分自身に栄養を与えるほうが良いという時期があるわけです。



ただしある程度以上、例えば7歳とか8歳になった場合は、これは子どもにとっても自分が独占しているよりも弟や妹を作ったほうが、遺伝的利益も大きい。というのは弟や妹は自分とは違うけれどもやはり2分の1の遺伝子を共有しているわけですから、共通祖先の遺伝子は共有しているわけですから、そうなってくると母親と子どもとは意見が一致する。子どもを作らしましょう、弟を作らしましょうというのと、お母さんが次の子どもを作らしましょうというのは意見が一致しますので、葛藤はないわけです。ここでいう「意見」というのは、意識的なものでなく、わかりやすくするための表現です。この離乳期の葛藤というのは、実はジンパンジーでは非常に長く、私は人間より長いのではないかと思います。

なぜかと言うと、次の子どもは父親を共有しないからです。母親を共有していても父親は共有していないのかもしれないので、遺伝的な関係は2分の1ではなくて4分の1かもしれない。そういうことで葛藤が長いのではないかと思います。

この離乳期の葛藤というのは、実は私は非常に重要なものだと思います。お母さんは子育てを早く切り上げたいと思っていますが、子どものほうはちょっとでも長くお母さんからの世話を受けたいというので、「赤ん坊返り症候群」といってわざわざ甘える声を出したり、抱っこしてくれとか、そういう振る舞いをします。チンパンジーも同じ。私も驚きましたけれども、チンパンジーも人間と同じように赤ん坊返り症候群になって、3歳から4歳のころになったら急に背中に乗らずに、小さい赤ん坊のときのようにお腹に抱かれようとします。

これは人間でもあって、大人の女性が恋人の男の人に電話で赤ん坊言葉でしゃべるとかして気をひき、愛情を獲得したいというようなこともあります。このように、母子関係は大人になっても社会行動の基礎になっているということがはっきりしています。

ここで重要なことは、相手の心を読み取るという認知能力は、こういう母子間の葛藤というところから多く生まれてくるのではないかと思います。

4歳の男の子ですが、お母さんがミルクを飲ませてくれないので大騒ぎしているところ。このような離乳期が社会性の発達に及ぼす影響として取引観念というようなものが生まれてくるということがあります。

例えば、5歳のメスがいて、隣に2歳の赤ん坊がいて、この子どものお母さんがいる。この5歳の子どもは赤ん坊ではなくて離乳がすすんでいるのですが、まだお母さんに次の子どもが生まれていないので一緒にいます。この子どもは別に血縁関係はないのですけれどもこの背中を毛づくろいしています。なぜそのようなことをしているのかと言うと、普通は小さいときは自分のお母さんは毛づくろいしていても、他のお母さんは毛づくろいはまずしない。これは実は

このお母さんの2歳の子とも遊びたいので、許可用のために毛づくろいのサービスをしているわけです。

この赤ちゃんを勝手にもっていくと叱られるので、毛づくろいをしてちょっとリラックスさせて持っていくという、こういう取引が離乳期のころに生まれてきます。

それから社会関係でいいますと、お母さんを3歳半ぐらいでなくした子どもの例、3歳半だとまだ授乳されていますがこの子の場合成長が早かったので、子どものいないメス（おとな）が彼女を養子に引き取ったわけです。養子に引き取って、ずっとかわいがって、結局、3歳半の子は、6歳ぐらいになっていると思いますけれども、時々会うときだけ毛づくろいして、お母さんのいない子も面倒を見るといったことがありました。

この後は、オスの間の社会環境です。例えば、あるオスと別のオスは連合して第1位のオスに向かっていきます。しかし、第1位のオスは仲良くする（連合する）ために毛づくろいという行動を始めるオスを見ると、それを妨害して自分に対する反抗勢力・反乱軍ができるのを未然のうちに防ぐといったことをします。

遊びについて。子どもは、ぐるぐる木の周りを回って遊ぶことが多いです。だいたい同年齢の子どもがやることが多いですけれども、場合によっては大人と子どもがやることもあります。違う年齢の子どもの間でやることもあります。

食べ物の配分について。チンパンジーは肉食です。メスが獲物を捕まえたのを、第1位のオスがそれを取り上げてしまい、ぐるぐる回しているところ。それを木の枝を折ってきて、第1位のメスやそれから第1位のオスの仲間が集まってきて、肉の分配を行う。それと、先ほどお話に出ましたがお返しがあるかどうかということです。例えば交尾はこういう肉の分配で

く起こりますけれども、それがひょっとして肉の分配のお返しなのかということは議論の余地があります。

ブッシュカというカモシカを第5位のオスが捕まえた例。これは木の上に持っていくのは、できるだけ、「よこせ、よこせ」と言ってくる他の連中が自分の近くに近寄らないためにやっているわけです。だからある程度分配は限られたものにしか与えない。しかし第5位のオスだったので、結局獲物のカモシカは下に落としてしまったわけです。下に待っていたのは第1位のオスで、そのとき第1位のオスは怪我をしていたので横取りできなかった。しかし手に入れると、その後は分配を始めます。

自分の仲間や、第5位のカモシカを捕まえたオスに一部を持っていかれることは許します。あとは年寄りのオス2頭とか第1位のメスとか、自分の与える仲間が決まっているようなのです。

ちょっと面白いものを一つお見せします。鼻づまりのオスが棒を鼻の中に入れて、くしゃみを出して、鼻汁を出し鼻づまりを解決するというものです。なぜこれが興味深いかと言いますと、これを真似する者が全くいないのです。私はこれを1990年ぐらいから10年以上何回も見っていますが、それをだれも真似をしません。

それから、これはチンパンジーの文化の一つの例かもしれませんが、ここに今葉っぱをくわえてビビビッと音を出しているメスがいます。枯葉を口に入れて歯で噛んでビリビリッと音を出します。少し離れたところに若いオスがいます。その若いオスと交尾したいのですが、いきなり近寄ったりせず、あのようにシグナルを送るわけです。

そして、若いオスはすぐに交尾しないで、灌木を倒したりして合図をするのですね。

小さい子どもが間に入りませんが、あれはこのメスの娘なので交尾の妨害をするのです。ここ

のところは不思議なことです、だいたいの場合は妨害をします。早く弟や妹を作るなどいうことでしょうか。

それから、これは別に何ということはないのですが、岩を投げました。これは何をやっているのかというと、大人の順位を決めているのです。第1位のオスは順位を保つために喧嘩を吹っかけるのではなく、デモンストレーション、大きな岩を両手で持ち上げて河の中に放り込むということで、直接的に喧嘩をしないで自分のスタミナや力を示すというようなことがチンパンジーの社会では行なわれています。

ほとんど時間がなくなりましたので、後は質問をお受けすることにしまして、今日はこれで終わりたいと思います。

.....

〈質疑応答〉

(司 会)

まだもう少し話を聞きたいような気分ですが、予定の時間が午後3時半までということで、せっかくの機会なので、ぜひ先生にお尋ねをしたいということがありましたら、質問を受けていただくかと思えます。どなたかありますでしょうか。

(フロア：質問)

「チンパンジーの研究」そのものについてですが、人間生活に参考になるからという意味で研究をされることなのか、動物の生態として研究されるのですか。

(講 師)

何かにすぐ役に立つために研究しているわけではありません。ただ、この研究によって人間の生物学的な背景というか、非常に遺伝的に昔から持っているものや性質、そういったことを

明らかにすることによって新たに制度設計をするときに人間性を無視したような制度設計をしてもだめだろうと、そういう広い意味では役に立つだろうと思います。

例えば、社会主義の一党独裁のようなもの、個人所有を認めない・平等に分割するというようなものはやはり共通祖先の性質から考えると、そういう制度は成り立っていかないだろうと思います。

だから、狭い意味では役に立たないかもしれませんが、人間性に反するような制度を作っても無駄であるというようなことを教えるという意味では社会に役立つといえるでしょう。

(フロア)

ありがとうございました。

それと、人間は万物の霊長とよく言われますが、その人間のやっていることが進化しているのだろうか。そう思うのは、世界で戦争はちっとも終わらない。こういうことで、人間が進化しているのと言えるのかどうかということです。そして元は一緒だから分化すると言われましたが、それなら、人間に変わる新しい、人間よりもマシな生き物、生物が出てくるという見通しはないのでしょうか。

(講 師)

私もそういうことはよく分かりませんが、戦争には、いろいろな原因があるとは思いますが、やはり今は石油文明に因るところは大きい。石油の浪費。例えば車のことですが、名古屋は特に中部地方は移動するのに車を使う人が70%といいますが、1台の車を1人の人が乗っていると、それを後世の人から見れば、何ということをやっているのだろうと思われるかもしれません。

これは『クオヴァデイス』という本に載っている

る、ローマ時代に貴族が集まってごちそうを食べるときのこと。胃袋は大きさが決まっていますので、ある程度までしか食べられない。しかしもっと食べたい、いろいろなごちそうもある。それで指を突っ込んで今食べたものを吐いて、また新しいものを食べると。そういうことをローマ人はやっていたのです。我々は「何てばかなことをやっているのだ」と思いますが、同じように、現在の文明はあまり過剰に資源を使っているのです、後世の人に「何という贅沢をしているのか、たった1人が1トンもの車を使っていたのか」というようなことを言われるのではないかと思います。

今の高度の文明社会では、人間は文化を蓄積する高い能力が示されました。チンパンジーの文化というのはありますがどうも蓄積技術はない。人間は特に言葉を発明して文字を発明してコンピュータを発明して知識を蓄積する能力を得た。これが大きな文明の力になりましたけれども、一方であまりにも資源を無駄遣いしているということで地球を、我々自身を危機に追いやっていると思います。

(司 会)

ありがとうございました。



■団体紹介■

「夢が実現した ゆったり工房」 ～施設移転とメンバーの働く場～

社会福祉法人 あじさいの会

理事長 脇 田 順 子 氏

愛知県日進市にあります社会福祉法人あじさいの会は、精神疾患のため社会的生きづらさがかかえている人たちが、地域の中で自立した生活を送れるよう、次の3事業を展開しています。

1つは就労支援B型事業所として主たる事業所「ゆったり工房」。次に従たる事業所の「スロークフェゆったり」。3つ目は相談支援事業所「希望」です。

1. 主たる事業所「ゆったり工房」は…

1996年4月小規模作業所として開所し、その後2003年4月には社会福祉法人を設立し、小規模通所授産施設になりました。この間、ゆったり工房は地域の人たちとネットワークを結び、ボランティアの方も含め地域の方々に支えられながら事業を行うのが特徴で、それは今年で14回目を迎えた800人規模の「あじさいコンサート」にも表れています。

《施設移転》

今年4月、13年間活動をしてきた日進市折戸町の施設が手狭になってきたため、日進市三本木町に学生寮を無償で借り受け、改修工事を行い移転しました。新しい施設は従来の約2.5倍の広さがあり、充実した事業展開ができることになりました。

■新施設外観



1階は飲食店営業・菓子製造業の許可をとった厨房、作業室を含め、ハーブティー・ブレンド茶を作る作業室、事務室、トイレがあり日々

の作業の場になっております。

2階は相談室、さをり織り機を5台そろえ地域の方が体験できるさをり部屋、また集会室もあり「地域のコミュニティの場として」の活用していただけるスペースができました。

■ 2階：さをり部屋



《作業内容》

ゆったり工房の定員は10名です。昨年10月開店した日進市図書館内の従たる事業所「スローカフェゆったり」のバックヤードとしての作業—メニューの手作りカレーの仕込みやクッキー作り—や以前から行っているハーブティー・ブレンド茶の製造を行っています。



■ 1階：厨房にて仕込みをするメンバー



■ 1階：作業室にてハーブティー作るメンバー



2. 従たる事業所「スローカフェゆったり」は…

昨年10月日進市立図書館が開館し、そこに併設されている喫茶コーナーが「スローカフェゆったり」です。何年も前から、喫茶コーナーを障害者の働く場に！と日進市の障害者団体が要望していましたが、最終的に社会福祉法人あじさいの会が利用契約者となりここにメンバーの夢が現実のものになりました。

《仕事内容》

ここではメンバーの特技や希望を活かし役割分担をし、責任を持って仕事を受け持ちます。ホールではトレイセット・接客・レジ係など・キッチンでは調理・洗い・珈琲店などを職業指導員、生活支援員とともに行っています。

図書館開館日は営業しますが、利用者は火曜日から土曜日までの午前10時から午後4時までの開店時間、シフトを組んで働いています。

■スローカフェゆったりで働くメンバー



メニューのひとつ“手作りカレー”は10年以上前から「ゆったり工房まつり」で試行錯誤をしながら作り上げてきた自慢のもので、子どもさんからお年寄りまで喜んで食べていただいております。このカレーの仕込を「ゆったり工房」厨房で調理し、図書館へ運んでいます。

営業をはじめて1年になりますが、図書館の利用者数が1日平均2000人近くあり、おかげさまで順調にお客様に来ていただいています。ミニコミ紙の取材を受けたメンバーの一人は「お客さんに『おいしかった、ありがとう』と言われることが一番うれしい。無理に背伸びせず、できることをていねいにこなして長く続けたい。私たちが障害のある人たちの希望のひとつになれば」と答えていました。

なお、日曜、祝日は職員や法人役員、ボランティアで営業しています。本誌をお読みの皆さまのボランティア登録を願っています。

3. 相談支援事業所「希望」

昨年4月より日進市より委託を受け、心の健康について、病気や生活の不安、対人関係について悩みのある方、就労についての相談等を無料にて行っております。昨年の相談件数は電話、面接を含め200件以上ありました。

なお今年4月からは月2回、三好町の当事者支援の委託を受けて活動しております。

現在は就労支援継続事業所として作業や働くことに重点がおかれていますが、「家から一歩でる」人たちの「場」が整っていません。近い将来、そんな「場」が提供できるように、また親亡きあと、安心して地域で暮らしていける「家」がほしいと夢は広がっていきます。

4. おわりに…

施設移転については無償で学生寮を提供してくださった地域の地主さんのご厚意とともに、改修工事に際しましては、多額の資金が必要でした。日本財団の助成が受けられたことが大きかったのですが、その他に積立金、寄付金だけでは不足、金融機関からの借り入れもしました。それでも足りないことがわかりましたので、貴協会の「基金」を借用させていただきました。6年前の社会福祉法人設立の折にも利用させて

いただきました。本当にありがたいことでした。この場をお借りし厚くお礼申し上げます。

その他の記事

Eメールアドレス

k-yuttari511@kss.biglobe.ne.jp

団体ブログ：ゆったり工房だより

<http://blog.canpan.info/yuttari/>

個人ブログ：ゆったり工房ニュース

<http://blog.canpan.info/ajisainokai>



■ 平成21年度（21回）「定期総会」報告 ■

平成21年度（21回）定期総会が6月18日（木）に開催されました。協会諸事業、平成20年度決算報告及び平成21年度予算（案）について協議され、それぞれ承認されました。

なお、人事異動に伴う新役員は次のように承認されました。

理 事

相場 知己 愛知県県民生活部学事振興課私学振興室長
 明石 都美 名古屋市保健所長会長
 梅村 仁志 愛知県精神保健福祉士協会会長
 糟谷 寛和 愛知県健康福祉部こころの健康推進室長
 木全 義治 愛知県精神障害者家族会連合会長
 近藤 吉章 名古屋市健康福祉局生活福祉部長
 津崎 秀樹 名古屋少年鑑別所長

監 事

平松 修 名古屋市健康福祉局障害福祉部主幹

平成 20 年度収支決算

(単位千円)

収入の部		支出の部	
会 費	1,387	人 件 費	756
県委託料	200	事 務 費	260
市委託料	100	事 業 費	557
繰 越 金	914	繰 越 金	1,063
雑 収 入	35	予 備 費	0
計	2,636	計	2,636

平成 21 年度収支予算

(単位千円)

収入の部		支出の部		
会 費	1,385	一般 管理 費	人件費	802
県委託料	200		事務費	500
市委託料	100		事 業 費	1,035
繰 越 金	1,063		予 備 費	413
雑 収 入	2		計	2,750
計	2,750			

精神保健福祉基金貸し付け制度のご案内

当協会では、精神障害者の社会復帰及びその自立と社会経済活動への参加の促進を図るために、「愛知県精神保健福祉協会精神保健福祉基金」を設置し、精神障害者を対象とする障害福祉サービス事業所等を運営する者に対して、必要な資金を無利子で貸し付けています。

***貸付の対象者：**主として精神障害者を対象とするグループホーム、ケアホームまたは小規模作業所等を運営する者

***貸付の種類：**①運営資金—施設の運営に要する費用
 ②整備資金—施設の創設、改造、修理等に要する費用

***貸付額：**1口10万円で、限度額は10口（100万円）まで

***貸付利子：**無利子

***償還方法：**1年据え置きで、以後3年以内に一時償還または分割償還

***受付方法：**毎年8月末日までに協議書を提出（平成21年度は終了しました）

お問合せは精神保健福祉協会事務局へ

会員募集のお知らせ

当協会では、広く会員を募集しています。

年会費：個人会員（1,000円）

団体会員（15,000円）

賛助会員（50,000円）

納入方法は郵便振込用紙をお送りします。

お問合せは事務局までお願いします。

事務局 〒460-0001

名古屋市中区三の丸3-2-1

愛知県東大手庁舎

愛知県精神保健福祉協会

TEL 052-962-5377（内550）

FAX 052-962-5375